汐見地区

須藤公園

汐見地区町会連合会

昭和34年4月結成

千駄木二丁目東町会　千駄木二丁目西町会
上千駄木町会　千駄木東林町会
千駄木西林町会　千駄木三丁目南部町会
千駄木三丁目北町会

歴代会長

初代	佐々木　光	（昭和34年4月～昭和36年3月）
二代	岡田　圭雄	（昭和36年4月～昭和44年3月）
三代	須合　一郎	（昭和44年4月～昭和54年3月）
四代	野口　守雄	（昭和54年4月～昭和59年3月）
五代	大熊　武榮	（昭和59年4月～昭和60年3月）
六代	澤田　健蔵	（昭和60年4月～昭和61年3月）
七代	高野　悦義	（昭和61年4月～昭和63年3月）
八代	楠山　正雄	（昭和63年4月～平成3年3月）
九代	大熊　武榮	（平成3年4月～平成4年3月）
十代	本山　正治	（平成4年4月～平成6年3月）
十一代	高野　悦義	（平成6年4月～平成7年3月）
十二代	吉田　有孝	（平成7年4月～平成10年3月）
十三代	井岡　恒夫	（平成10年4月～平成20年3月）
十四代	髙橋　毅喜	（平成20年4月～）

地区町会連合会のあゆみ

昭和34年に結成された「汐見地区町会連合会」は、定期的に開催されている総会、町会長会及び役員会を通じて、密接な情報交換と事業連携を図り、汐見地区の親睦と町民の福祉増進に寄与してきているところである。

地域環境の整備については、昭和40年に地域の商店連合会等と協力し、不忍通り店舗前ガードレールを設置、又、同年地下鉄9号線（千代田線）工事に伴い、当初計画に無かった千駄木駅の設置について関係団体と協力、国会に請願し、これが採択され、昭和44年に待望の千駄木駅が開設された。さらに、不忍通り拡充整備事業推進のため、不忍通り都市計画促進会を地域商店街、関係町会、地区町会連合会で結成し、（1）地域社会全体の再開発と生活環境の改善、（2）車輛交通の円滑と歩行者の安全確保のための施設建設、（3）出水対策、災害防止の施策、（4）商工業の発展のための施策等の早期実現を都議会に請願、これが採択され、昭和47年4月に不忍通りの車歩道が整備された。

その後、平成16年のバリアフリー法制定を機に、汐見町連7町会長を中心に「千駄木駅を愛する会」を発足させ、千駄木駅改良計画を進めてきた結果、エレベーターの新設、列車風の軽減、千駄木駅全体のリニューアル工事が、平成26年度完成予定で進められている。

一方で、地区町連活動が活発化するに伴い、青少年健全育成のための各種行事も、青少年対策汐見地区委員会と合同して行われることになり、数多くの事業を実施してきたが、現在実施している千駄木マラソンは29回、スキー行事に至っては41回となっている。

さらに、根津地区町連と合同で下町の風情を発信してきている、「根津・千駄木下町まつり」においては、台東区と合同で実施してきた10回を合わせると計24回を数えている。

この間、昭和47年より49年にかけて、当汐見地区町連第三代会長須合一郎氏は、文町連会長として文京区の自治会発展のために大いに貢献された。

当汐見地区は地形上毎年水害を受け、特に不忍通り沿いの住民の被害は甚大なもの

であった。このため、都では抜本的な対策を講じてきており、いくつかの下水幹線工事も完成して効果が現れている。現在、平成26年度を目途に、第二谷田川幹線の整備が進められているが、これが完成すると汐見管内の浸水被害も相当軽減されるものと期待されている。

結束して事にあたる汐見の力は、今後も、子どもたちと、調和のとれた新しい街づくりのために、発揮され続けられ、町連活動は、その核となっていくものである。

千駄木マラソン2013

スキー行事

下町まつり(H24)

千駄木二丁目東町会

昭和23年4月結成

歴代会長

初代　佐久間桂次（昭和23年4月～昭和25年1月）
二代　太田　兼蔵（昭和25年2月～昭和27年1月）
三代　佐久間桂次（昭和27年2月～昭和33年12月）
四代　佐々木　光（昭和34年1月～昭和44年4月）
五代　本橋　信次（昭和44年5月～昭和45年4月）
六代　名倉立太郎（昭和45年5月～昭和49年4月）
七代　濱川　順市（昭和49年5月～昭和53年5月）
八代　大熊　武榮（昭和53年6月～平成8年3月）
九代　鈴木　富茂（平成8年4月～平成22年3月）
十代　松田　　功（平成22年4月～）

町会のあゆみ

千駄木二丁目は、文京区の北東に位置し、台東区と境とする町である、徳川家康が江戸城を構えるにあたり、鬼門になる上野に東叡山寛永寺を建立し、護摩木を千駄ずつ納めるによって名づくともいう、又東叡山建立後、御宮及び大献院殿御霊屋の御薪として附せられる所以なりとある。

「新編無蔵土記」御林蹟地と題してこの林は、太田道灌が植えし栴檀の木多かりし故に栴檀木材と言える後に依って文字改めしなり。この説は正しいとも思われず、上人の伝えるところも信じ難し、かくの如くその昔、四十軒位の僻村であった、現在の我々の住む千駄木二丁目東町は明治十一年本郷区駒込千駄木町となる。昭和二十三年四月千駄木二丁目東部協力会発足、初代会長以後、代々の先人が営々と守り育て現在にいたるも幾多の難関あることを痛感致すところであります。

現在、組織は会長、副会長、会計、監事、1～5部長、総務部、文化部、防火部、防犯部、福祉部、交通部、環境衛生部、婦人部、公園管理部、地区対常任委員、各部により諸官庁行政への協力他町会運営活動をしている。近年振りこめ詐欺被害防止、首都直下型地震想定訓練など防災訓練が重要視されているが、人との繋がりが希薄になり気軽に手をさし延べることもままならなくなっている。町会員の勧誘については若い世代の人に町会活動に関心をもっていただき、いざというときに何事にも対応できる町会でありたい。

平成25年7月 千駄木二丁目東町会 親睦日帰りの旅　「国会議事堂と東京スカイツリー展望デッキ」

千駄木二丁目西町会

昭和23年結成

歴代会長

初代　鈴木　眞亮（昭和23年～26年3月）
二代　濱井　政吉（昭和26年4月～昭和36年3月）
三代　荒川　　忠（昭和36年4月～昭和40年3月）
四代　須合　一郎（昭和40年4月～昭和54年3月）
五代　上野半一郎（昭和54年4月～昭和56年3月）
六代　金久保早治（昭和56年4月～平成2年3月）
七代　和田　安信（平成2年4月～平成6年3月）
八代　井岡　恒夫（平成6年4月～22年3月）
九代　尾崎　哲雄（現会長）（平成22年4月～）

町会のあゆみ

「我が町千駄木」は、明治33年「薮下通り衛生組合」発足以来「共交会」「千駄木下町会」「千駄木西町会」と、その名称を変えつつ、太平洋戦争に突入、戦後の町会解体による活動の停止はあるものの、「汐見会」で再興し「千駄木西町会」を経て昭和40年4月住所表示変更により駒込千駄木町が千駄木二丁目となり、それにともない町会名が、「千駄木二丁目西町会」に改名するに至っております。

由緒ある千駄木とその周辺には幾多の歴史と、人の移ろいがより深く刻まれております。

「千駄木二丁目西町会」の特徴としては、町会内に「汐見小学校」「第八中学校」「しおみ保育園」「しおみ児童館」という子ども達に関連する公共施設が、4施設もあることから、町会員の子どもを見守る姿勢が非常に強く、1400世帯ありながらも、コミュニティがしっかりしていることです。

昭和45年の千駄木二丁目の風景

上千駄木町会

昭和27年4月七曜会結成

歴代会長

初代　明石三重子（昭和27年4月～昭和30年3月）
二代　田代　君子（昭和30年4月～昭和51年3月）
三代　福島善太郎（昭和51年4月～昭和53年3月）
四代　澤田　健蔵（昭和53年4月～昭和61年3月）
五代　楠山　正雄（昭和61年4月～平成19年3月）
六代　鈴木　八郎（平成19年4月～平成23年3月）
七代　鶴巻　貴弘（平成23年4月～平成25年3月）
八代　鈴木　八郎（平成25年4月～）

町会のあゆみ

昭和27年に住民の親睦を図るため、七曜婦人会が結成された。その後男性による「祭り会」と合併し、現在の町会の原点となりました。

特に、田代会長は町名変更について、行政側と熱心に交渉、現千駄木の町名を残すことに尽力、永年にわたり女性会長として上千駄木町会のために活躍されました。そして福島、澤田両会長が新時代に即応すべく、町会組織を強化し現在に至っています。

婦人部は毎月の廃品回収、厚生部はラジオ体操、町会のレクリエーション「バスハイク」、防犯部は日頃の町内の防犯啓蒙と防止に、交通部は地域の交通安全、各イベント時の交通整理。防災部は12月の「こども夜警」を始め、地域の防火訓練等と積極的に参加し防災・防火に努めております。又地区対部は他の町会と連合して「千駄木マラソン」「プール開放」など数々のイベントの運営に携わっております。

ここで我が上千駄木町会を紹介したいと思います。

「団子坂の菊人形」と言えば、懐かしく思われる方も多いかと思います。団子坂を登ると、右はお富士様より保健所前を通り坂上へ、左に曲ると汐見小学校裏門から汐見坂を下り消防署、根津神社裏門へと通じ、汐見地区の高台と不忍通の商店街とに二分、この薮下の道、特に坂上より根津神社への道は、昔から多くの文壇人が好んで通った道です。

●観潮楼

高層ビルのなかったその昔、ここからは遥か東京湾や深川、浦安あたりの海の潮が観えたとか。また昔なつかしい両国の打上げ花火もよく見える高台地域でした。

森鴎外が、明治二十五年一月から大正十一年七月没するまでの住居跡で、自ら家を観潮楼、自分を観潮楼主人などといっていた。現在は、「森鴎外記念館」となり、貴重な遺品を保有、展示しています。平成24年11月に竣工し、当町会はその鴎外生誕150年記念に鴎外生誕の地、島根県津和野町とネットを通して記念事業を盛り上げました。

区当局及び多くの方々のご協力により、当町会に立派な記念館ができたことは、喜びと共に感謝に堪えません。

この高台一帯は町名の通り緑の多い場所で、太田ケ原とも言われ、昔の武将達の鷹狩の地とされたとか。団子坂上より白山に向う商店街の両側には数々のお寺があり春秋のお彼岸お盆には多くの墓参の人で賑わっております。

町内の史跡として忘れてはなられないのは「漱石旧居跡」です。

●漱石旧居跡

日本医大本部の一角に漱石旧居跡があります。夏目漱石がここで始めて創作の筆をとり、次々と名作を発表して一躍文壇に出た漱石文学の発祥の地です。この辺は昔から屋敷町として知識人、文壇人の多く住んでいた落着いた住みよい地区でもあります。

五丁目向ヶ丘の一部、漱石旧居跡、日本医大の裏から薮下通り、太田様の古池を左に見て、団子坂上へとこの一画が上千駄木町会の地域ですが野鳥も舞い戻り、尾長、ムクドリ、メジロ、ウグイス等々、都会でありながら静かな緑の多い地域です。

町内を皆様の力で、更に住み良い地域として努めて参ります。

漱石旧居跡

森鴎外記念館

千駄木東林町会

昭和24年7月結成

歴代会長

初代　大給　庸子（昭和24年7月～昭和25年3月）
二代　酒井　イト（昭和25年4月～昭和26年3月）
三代　鳥居　喜代（昭和26年4月～昭和32年3月）
四代　沢田　むめ（昭和32年4月～昭和54年3月）
五代　青柳　　正（昭和54年4月～昭和64年3月）
六代　村上　喜一（昭和64年3月～平成8年3月）
七代　木下光一郎（平成8年4月～平成13年3月）
八代　髙橋　毅喜（平成13年4月～）

町会のあゆみ

私共の町会は豊かな緑につつまれた町で都心にほど近く環境が良く下町と山の手の接点にあたる人情暖かい土地柄で、戦前は子爵大給近孝氏が町会長を務められ本郷区林町東部町会と称して地域の親睦発展に寄与されたが、終戦となり世間も変り町会活動も自然消滅となった。そして戦後物資の乏しい時期に文化婦人団体としてお互に啓発し、女性の集りが町会の芽ばえとなり次第に世の中も落ちつくにつれ「社団法人東林町会」として昭和24年7月女性を主とした町会が生まれたのである。初代の大給庸子会長以後女性にひきつがれた。以後多くの男性も加わり充実した町会が形成され昭和56年には「社団法人東林町会」から「千駄木東林町会」と改称されたのである。

当町会には文豪芸術家の旧住宅もあり、又公共福祉施設も出来又道路整備も行われ「くらしのみち」も出来コミュニティバス「B－グル」も運行される様になり便利さを増し充実した町会になりました。千駄木東林町会は文京区汐見地区町会連合会に属し約1350世帯の大きな町会であり当町会は行事やイベントを年1回レクリエーション、バスハイク、祭礼等行っており町会の皆様には喜んで頂いております。この伝統ある町を皆様によって引き継がれていく事を願っております。

昭和4年に大給子爵より当地に寄贈された武道場で平成21年に改築した東林町会事務所（芳林閣）

千駄木西林町会

昭和34年8月結成

歴代会長

初代　富所　富平（昭和34年8月～昭和54年10月）
二代　松本　政男（昭和54年11月～昭和61年10月）
三代　吉田　有孝（昭和61年11月～平成12年3月）
四代　野口　哲彦（平成12年4月～平成16年3月）
五代　松本　正（平成16年4月～）

町会のあゆみ

昭和28年10月に、松村幸次・吉澤義正両氏により、町会に準じた諸事運営が行われるようになった。

昭和34年に初代会長に富所富平氏が就任することとなり、「千駄木五丁目西林町会」が正式に発足、本格的な町会運営に当たることとなった。その後、「老人クラブを」との声も多く聞かれ、昭和55年に「西林西寿会」が発足し、現在では藤森利子会長のもと、会員相互の親睦を図り多方面に活動している。

以来53年、世帯数700世帯、現松本会長を中心に役員一体となって円満なる町会運営に当たっている。

当町会が、この様な現在の隆盛をみるに至った理由の一つとして、当町会の守護神である「御林稲荷社」がある。当社は古く江戸時代よりの天祖神社の末社として、千駄木林町に祀られたものであるが、現社殿は昭和33年総鎮守天祖神社神殿再建のみぎり、戦後造営の仮本殿の払い下げを受け、造営鎮座祭お魂入れを行い、現在の社殿となったものである。

御林神社の祭礼は毎年5月に行われ、町内児童の絵画展も恒例になっている。

平成17年には、町内大神輿を修復し、秋季例大祭時の町内巡幸を復活した。

当町会の現況は、各担当部長、役員の活発な地域活動と共に、婦人部ならびに青少年部の献身的な協力により、交通安全活動或いは歳末夜警には子供達参加による巡回も例年の恒例となっている。

住みよい町づくりのために当町会の一層の発展が期待されている。

天祖神社例大祭（御林稲荷社）

千駄木三丁目南部町会

昭和33年6月結成

歴代会長

初代　小野田嘉八郎（昭和33年6月～昭和36年3月）
二代　岡田　圭雄（昭和36年4月～昭和44年3月）
三代　川村　達三（昭和44年4月～昭和50年3月）
四代　別府　恒雄（昭和50年4月～昭和56年3月）
五代　高野　悦義（昭和56年4月～平成7年3月）
六代　戸波　道正（平成7年4月～平成14年3月）
七代　青木　博（平成14年4月～平成20年3月）
八代　前田　賢司（平成20年4月～平成22年3月）
九代　田浦　光（平成22年4月～平成24年3月）
十代　古内　基裕（平成24年4月～平成26年3月）
十一代　西垣内　宏（平成26年4月～）

町会のあゆみ

本町会の前身である「駒込坂下町会」が加入世帯数の増加等により2分割されて、本町会は昭和33年（1958年）6月19日の創立総会で「駒込坂下南部町会」と決議され、昭和40年（1965年）4月の住居表示法施行に伴い、「千駄木三丁目南部町会」と改称され現在にいたる。

町会名改称時に町会のシンボルマークを公募して定めた。

不忍通りの東西に位置する本町会は8部48班の地区で構成され、町会組織には総務部、経理部、保健部、防犯部、防火部、福祉部、文化青少年部、交通部、公害部、防災部、婦人部の11部があり、歴代役員の献身的尽力により活発な活動を行っている。文京区内でも町会活動に纏まりのある町会との評を得ている。今後とも隣接他町会と協調しつつ、また行政官庁、その他公的機関との連携を一層強め、互助、隣保の精神を以って運営に当たる。

谷根千《ヤネセン》の愛称で呼ばれる谷中、根津、千駄木の街は、下町情緒あふれる地域として知られており、土日に限らず平日も多くの散策客で賑わっている。

東京大学が近くにあることで、過去に川端康成、北原白秋、高村光太郎、夏目漱石、森鴎外など多くの文人が居を構えた住宅を中心とした街です。

千駄木は古くは「豊島郡下駒込村」の一部地区であり、名前の由来は“雑木林で薪などを伐採、その数が千駄にも及んだから”という説や、“太田道灌が栴檀（せんだん）の木を植えた地であり、この栴檀木が転訛した”との説がある。

もちつきフェスタ

千駄木三丁目北町会

昭和23年5月結成

歴代会長

初代　菅　矢太郎（昭和23年5月～昭和38年1月）
二代　富本　茂（昭和38年2月～昭和43年2月）
三代　野口　守雄（昭和43年3月～昭和60年4月）
四代　本山　正治（昭和60年5月～平成7年4月）
五代　瀬川　長勝（平成7年5月～）

町会のあゆみ

当町会は昭和初期まで団子坂助長会（駒込坂下町と駒込千駄木町と合併）として活動していたが、大東亜戦争中に合併を解消し駒込坂下町と改称した。その後の敗戦により町会は一旦解散させられた。

昭和22年子ども勉強会を「若葉子供会」として発足させ、その活動が東京都民生局長より顕彰された。昭和23年には「駒込坂下町北部協力会」が結成され、庶務、保安、防火、文化、厚生、青少年、婦人の各部を設置した。昭和35年には会の名称を「駒込坂下町北部町会」と改称、さらに昭和40年には住居表示変更に伴い「千駄木三丁目北町会」と改称した。

創立六十周年記念祝賀会

平成9年より「子どもの火の用心」という、子ども達が防火を訴え町内を巡回する行事を始め現在も継続中。平成12年「地縁法人」の認可を受ける。また同年8月には町会の正式ホームページを公開、これは区内の町会としては初めての試みであった。平成13年に「我が町今昔写真展」を開催、ケーブルテレビの番組として放映された。平成14年から4年間にわたり、3町会合同企画として「子ども防災キャンプ」を実施。平成19年上野精養軒にて町会創立60周年記念式典を挙行。さらに平成20年からは「キッズクリーン隊」という名称で、町内の子どもたちが、まちをきれいに清掃しようという運動を積極的に行っている。

東日本大震災を機に地域の“つながり”の必要性がさけばれている現在、地域コミュニティとしての町会の役割は重要性を増しており、未来に向けて、地域住民一人ひとりの想いがつなぎ合わされた真のまちづくりの為に、今後も活動をすすめてゆく。

キッズクリーン隊

子ども防災キャンプ